

大郷町大松沢で園芸作物を栽培する高橋秀行さんは、種苗会社の研究農場で働きながら兼業農家を営んでいたが、「農業に専念したい」と考え、令和元年に退職し

笑う高橋さん



高橋さんは、路地で食用トウモロコシ30畝やブロッコリー20畝などを栽培する他、100坪のパイプハウス5棟でトマトとブロッコリーを二毛作している。

「省力化と歩留まりを高めるには設備投資から」と考える高橋さんは、8年前からハウス内に自動灌水装置を導入。設定した積算日照量と土壤水分に応じて灌水される。導入に約400万円掛かり、最適な設定に5年掛かったが、今では水の過不足がほぼない。

5月下旬からトマトの収穫を開始したが、着果と肥大促進のため、植物調整剤

に加えて今年からマルハナバチによる受粉を併用した。

遮光シートで覆われたハチの巣箱



ハチは花に咬み痕を残すので受粉が一目でわかる。処理の漏れがなく、効果も調整剤と遜色ないという。

ハチが噛むと花が変色する（右の花）



高橋さんは「消費者が買ってよかったと思う野菜を作りたい。その努力は惜しまない」と語る。